

集落活性化委託事業

樽平地区に

若さを！活気を！未来を！



いわき明星大学・人文学部・現代社会学科鎌田ゼミ

鎌田真理子教授

吉田真代、東秀人、浦田翔平、飯田晃子、金澤有臣
菅野智実、関大樹、森川創太、吉田真功、吉成史江

本日の内容

1. 経緯
2. 箒平地区の概要
3. 活動記録
4. 今後の展望
5. 鎌田ゼミ進捗状況
6. おわりに



1、経緯

【経緯】

以前から**高齢化・過疎化に興味**があり、近くにそういった集落があることを知り、実際に行ってみたく思った。

6月に、福島県からこの事業のお話を頂き、現地を訪れた。

この集落に至るまでの道のりが非常に過酷であることに驚いた。そこから、よりこの**集落について知りたい**という興味が芽生え、集落の調査と住民の人々との交流を行った。



2. 箒平地区の概要 —位置—

広野町の東は太平洋、西には阿武隈山脈が連なり、東西13km、南北7kmの広さです。西端は、東経140度52分10秒でいわき市に、東経は141度01分50秒で広野火力発電所の突端になります。太陽の南中高度は夏至のとき約76度、冬至には最低約30度となり、この範囲内で季節により少しずつ移動します。山は五社山、北迫川・浅見川・折木川の3つの川と、ニッ沼・西ノ沢池の沼地などがあり、温暖で寒暖の差が少ない気候です。

自然がいっぱい、楽しい笑顔が多彩に輝くひろのまち。

HIRONO GUIDE MAP

福島県双葉郡広野町浅見川字上箒平・下箒平はこの辺に位置しています！



一世帯・人口

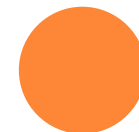
集計データ数(世帯数) 10世帯

総数(内訳) 21名(男性9名、女性12名)

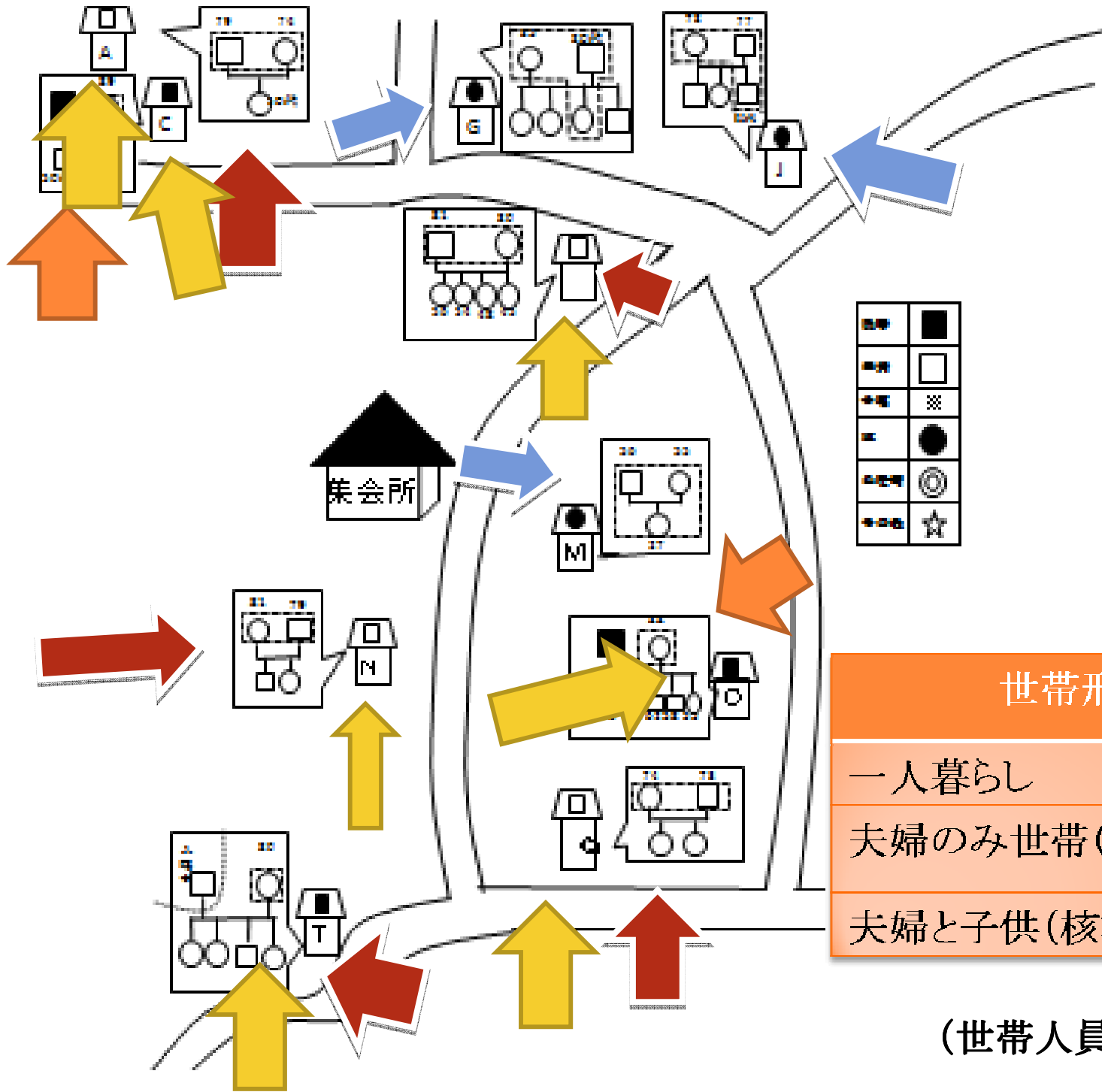
(平成21年9月14日現在)

年代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	平均
人数	1名	0名	0名	3名	1名	8名	8名	約73歳

(10歳階級別人口統計)



富平地区のヒューグリーム



世帯形態	世帯数
一人暮らし	2
夫婦のみ世帯(2人暮らし)	5
夫婦と子供(核家族)	3

(世帯人員別の世帯数)

【3. 活動記録】

月	活動内容
5月	集落活性化調査委託事業応募及び委託契約・今後の計画設定
6月	広野町役場訪問・第1回 箒平地区訪問・傾聴技術の学習
7月	集落支援の先行研究について調査。
8月	農文協の出版物による集落支援技術の学習 8日・9日 集落に向かう道の枝払いと草刈り。(教養ゼミ 延べ40名)
9月	第1回 箒平地区調査(1泊2日、箒平集会所及び個別訪問) 14日 1日目:意見交換及び交流会 収集データのまとめ、地図の調整、2日目予定確認 15日 2日目:訪問個別調査
10月	地図による現状把握及び調査票集計とデータ把握
11月	第2回 箒平地区調査 3日 →第1回調査のデータ提示、意見交換及び交流会 最終確認作業(データ作成、現状地図の作成)

生活道で 伐採奉仕

野 広

いわき明星大の教職員と学生らは八、九の両日、広野町の県道上戸渡広野線で樹木伐採のボランティア活動を行った。

いわき明星大生ら



伐採作業を手伝う学生ら

演習の成果「実践」

同大は平成十六年の新潟県中越地震をきっかけに、災害支援を担う人材の育成や学生の自己形成、中山間地域の現状に理解を深めることを目的にボランティアを実施。十八年には一般教育科目の選択科目として「災害ボランティア演習」を開講した。これまで、被災地で支援物資の仕分け作業や仮設住宅周辺の整備、会津地方や山形県では除雪作業などを行ってきた。

二十回目の活動となった今回は、人口が少ない町内の箒平（ほうきだいら）地区で生活道路確保のための樹木

伐採などを行った。二日間で延べ約四十人が参加した。同大の鈴木恵太郎

チェンソー採した道路沿を片付けた。わたり道路のっていた土の作業に汗を流 鈴木区長は 少ない中で、 かった」と話

福島民報 8月12日朝刊
8月8日・9日の草刈り

意見交換及び 交流会の様子



9月
14日・15日



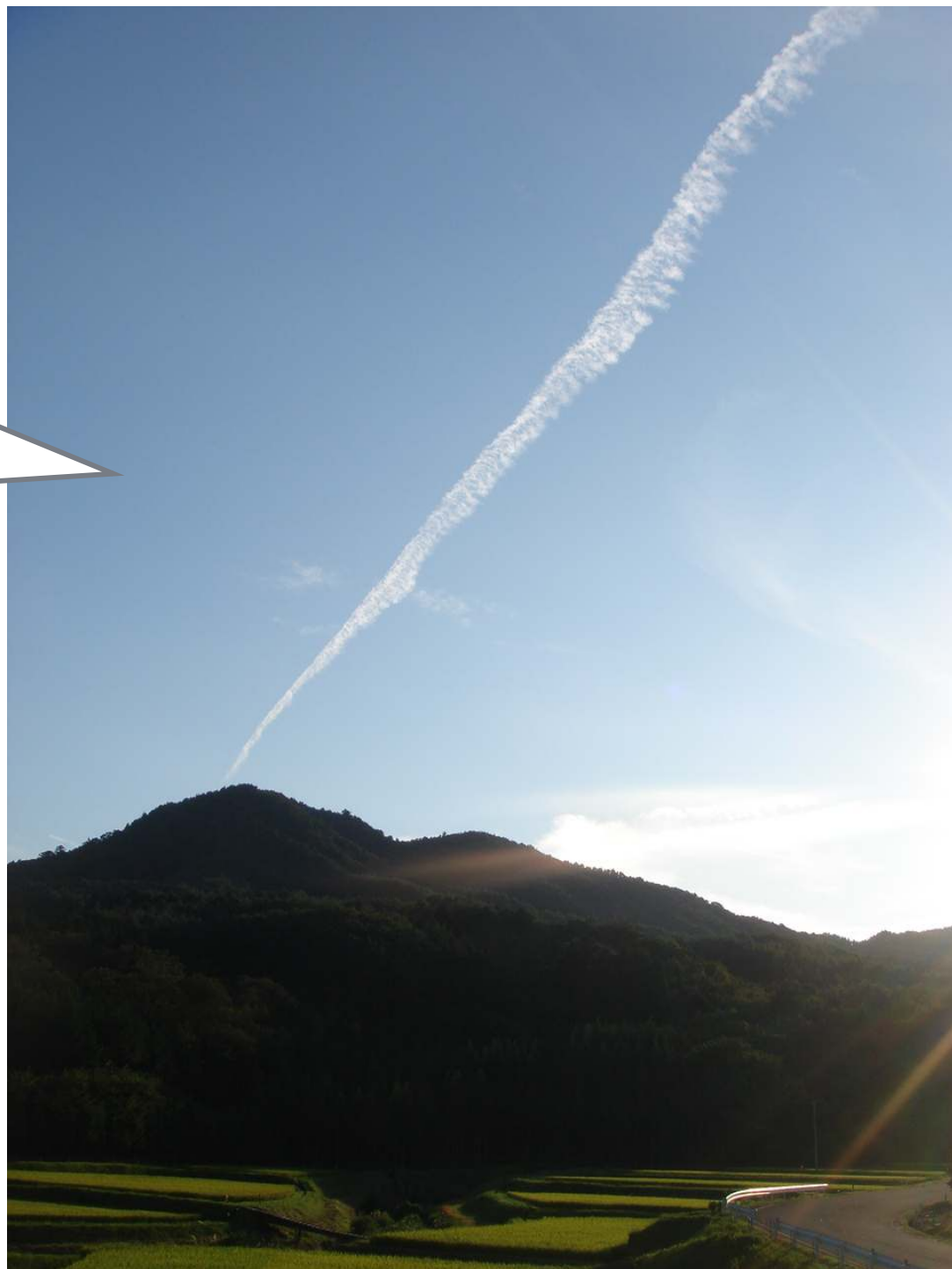
良コミュニティマップ 交流会で作成した



良いところ

○1) 「大自然」

空気や水が
とてもきれい！



2)「健康な人々が多い」

アレルギー(アトピー・花粉症など)やぜんそくの子や孫
がいない。

がんなどに罹患した人がいないとのこと。



3) 「自給自足の生活」

住民は農業で
自給自足の生活
をしている。



4)「ロハスな生活」

- ロハスな生活が実践されている。



ロハス＝
環境や健康に
気を付けた
LIFE STYLE



集落の風景

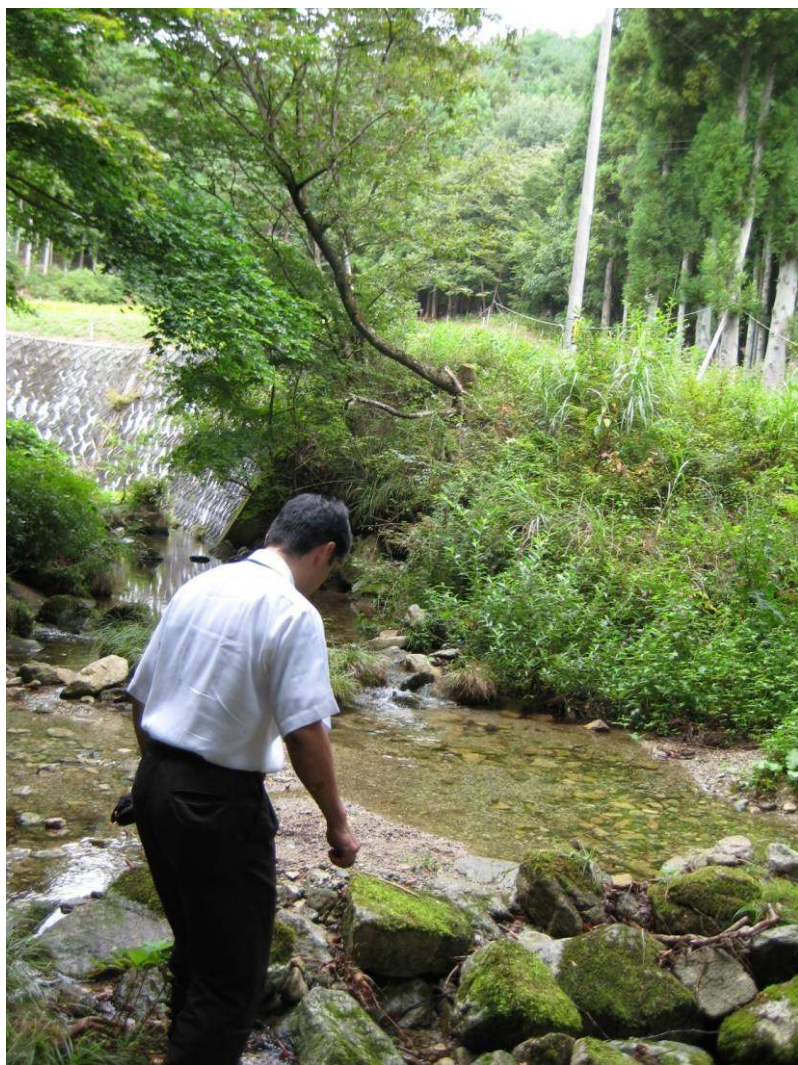
5) 「好きなことをできる」

それぞれの家屋が離れている為に、草刈りなどの作業の音を気にせずに行える。

- 自由な空間。



- この他にイワナやヤマメや舞茸が採れるなど自然の収穫物がある。
- 美しい花が自生している。



(↑アケボノつつじ)

(←魚が捕れる川)



交流会で話題になった危険な所

- 災害の発生しやすい場所がある。
(山道などで土砂・がけ崩れの恐れ。集落と市街地をつなぐ1本道が風水害で閉鎖の恐れあり)
- 交通事故が起こりやすい
(見通しの悪い)場所
(狭い山道など、夜道が危険)
- 獣害のある場所
山林、所有の畑・田んぼなど。
(サル・イノシシ・ハクビシンによる被害)



イノシシに荒らされた家の垣根。
時には家を壊す！！





サルが木の皮を
剥がした跡
農作物を食い荒らす！



なぜこの集落人口は減ったのか？

- ここで**収入を得ることは難しい**ことが一番の欠点(金銭を稼ぐことができない)
- 山の資源(山菜等)は品質上の問題で販売は不可能
- 田んぼをやっても赤字(せいぜいとれて7俵程度)
- 標高が高くて気温が低いために、野菜が**霜にやられてしまう**
- **高齢で農業はできない**
- **若い人には不便**で生活できない
- インターネット、携帯電話が使用できない
- 新しいことを始めるだけの**体力、気力がない**(平均年齢73歳)



4、今後の展望

4-1. 住民のニーズ

- 道路を

- +

- タ

若さ！活気！を取り
戻すために★



4-2. 未来へのアプローチ(提案)

①アトピーの子供静養システムについて

アトピーの原因は様々だが、**食生活・ストレス・過労・寝不足・環境汚染**・ハウスダスト・ダニなどが考えられる。

この箒平地区では自給自足が殆どの為、食品添加物の入っている食料を食べることが少ない。

地区全体の空気が澄んでいるので市街地で暮らす人よりはアトピーになりにくいのでは？

- ・空家レンタルの仕組み作りを検討していく。



②道路の二車線化

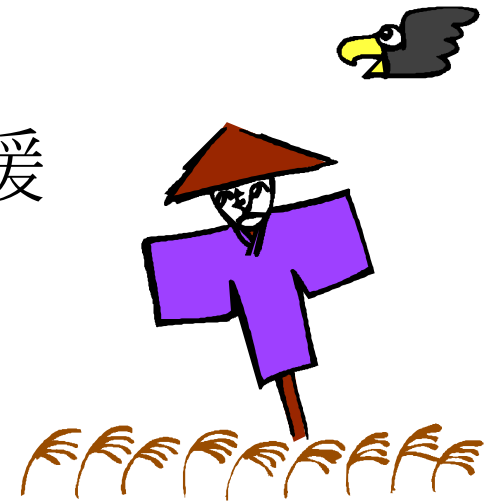
- 大滝旅館(車で約20分下ったところにある)がある位置から箒平地区へ向かうにつれて道幅が狭く、**対向車とすれ違うのは困難**である。どちらかが後退する他ない。日が落ちて暗くなると**電灯も死**なので、道に慣れない人は運転は億劫になってしま
- 住民の方々からも、道路か
ではないか?という声があ
- このような地区の意見を吸
かけていきたい。





③「箒平インターンシップ」・授業での支援

若者を呼び込むための方法



1. インターンシップ活動先メニューとして位置づける。

2. 「教養ゼミ」の活動先。

(H21年度は草刈り実施済み。

今後も継続予定)



小満

5. 鎌田ゼミ進捗状況

- ①地域点検マップ作り
- ②課題の整理と共有化
- ③地域の将来像を描く
- ④碓平地域内での中間報告会の開催
- ⑤目標・プランを立てる
- ⑥活動のスケジュールを立てる
- ⑦実践

現在はこの
段階！



○ 1段階 交流！

芋煮会・もちつき・草刈り・花見などの交流を通じて、住民の方との信頼関係を深めたい。

2段階 箒平住民と大学とのコラボ企画を立てる！

- ・アトピーなどの虚弱体質者静養システムの企画と実施。
- ・空家レンタルシステムの検討。(移住希望者への情報提供)
- ・住民と共同して郷土料理を考案。



6. おわりに


- 活性化策をいくつか考えたものの、私たちはまだまだ勉強不足・力不足であり活性化には程遠い。

平均年齢73歳とは言えどもとても明るく、笑顔が素敵な住民の皆さんに、大学生の私たちのほうが元気をももらった。

だが、この地区の将来の話になると「もう歳だから活性化などできない」と肩を落とす皆さんを、今度は私たちに元気づけることが出来るのではないかと感じている。

いきなり大きなことは出来ないが、芋煮会やもちつきなどの行事をつくって交流し、出来ることからこの地区を元気づけていきたい。



A photograph of a person wearing a blue cap with a logo and a blue uniform, working outdoors. The person is holding a long wooden handle. The background shows a building with a white corrugated metal door and some greenery. A large red heart with a white outline is overlaid on the image, containing the Japanese text "ありがとうございます。" (Thank you very much.)

ありがとうございます。
ございました。